



国際交流支援事業について ～各地方自治体の取り組みについて～

(一財)自治体国際化協会交流支援部交流親善課

国際交流支援事業について

クリアでは、地方自治体や地域国際化協会が主体的に行う国際交流事業のうち、交流の拡大や発展が見込まれ、地域住民等の幅広い参画が見込まれる事業に、対象経費の一部を助成しています。

今回、2019年度に助成を行った28事業の中から、5件の取り組みを紹介します。

こうした取り組みを参考として、さらに多くの活発な国際交流が行われ、地域の国際化・活性化につながっていくことを期待しています。

【対象事業】

- ・ 姉妹提携または友好提携に係る記念事業
- ・ 文化、芸術または研究に関する交流事業
- ・ 青少年交流に関する事業
- ・ 国際会議に関する事業
- ・ その他地域の特性を生かした交流事業

原則として、新規事業が助成の対象ですが、継続的に行われている事業であっても他の自治体や地域国際化協会のモデルとなるような、先駆的な事業であれば対象となります。

【対象団体】

都道府県、市区町村、地域国際化協会

【助成金額】

助成対象経費の1/2以内、上限は以下の金額

海外で行う事業・・・500万円

国内で行う事業・・・300万円

【国際交流支援事業掲載ホームページ】

<http://www.clair.or.jp/j/exchange/shien/page-5.html>

【お問い合わせ】

2021年度事業につきましては、9月ごろから募集を行う予定です。

交流支援部 交流親善課

Tel: 03-5213-1723 Mail: koushin@clair.or.jp

『都市間連携国際サミット2019浜松』開催事業』（浜松市）

静岡県浜松市では、2019年10月24日から26日の3日間にわたり、国際交流基金および都市・自治体連合アジア太平洋支部（UCLG ASPAC）との共催により、「都市間連携国際サミット2019浜松」を開催しました。

「持続可能な地域づくりに向けた都市間連携のあり方」をメインテーマに、欧州、アジア、オセアニアなど9か国の市長・副市長に加え、浜松市が加盟する国際的なネットワークであるUCLG ASPACやインターカルチュラル・シティ・ネットワーク関係者が参加し、「多文化共生」、「自治体外交」、「SDGs」の3つのセッションテーマを通じて、各都市の現状や課題、効果的な取り組みの紹介など、課題解決に向けた活発な討議が展開されました。

サミットの締めくくりとして、浜松市長が「浜松宣言」を発表し、参加者の賛同を得て採択されました。

グローバル化が進展し、自治体単独では解決できない地球規模での課題に対し、都市間連携による国際的なネットワークの活用がこれまで以上に期待されています。

国境を越えた都市間の連携・交流が果たす役割がますます重要になる中、浜松市では、国際的なネットワークの積極的な活用を通じて海外諸都市との関係を構築し、都市の国際連携による持続可能な地域づくりを引き続き目指していきます。



「都市間連携国際サミット2019浜松」浜松宣言の採択

「BEYOND2019 姉妹都市ラグビー交流推進事業」(釜石市)

岩手県釜石市とフランスのディーニュ・レ・バン市(デ市)は、1992年に釜石市で開催された「三陸・海の博覧会」(デ市の「アンモナイトの壁」レプリカ展示)をきっかけに1994年4月から姉妹都市としての歩みをスタートしました。

その後、両市の子どもたちを中心に交流を実施してきた中で、2011年に起きた東日本大震災による釜石市の被災に対し、デ市から多大な支援をいただきました。

2018年には、釜石市長ほか関係者が訪仏した際、両市がラグビーを通じた交流を行うことについて協定を交わし、ラグビーワールドカップ2019日本大会と2023年にデ市で開催予定のアマチュア・ラグビーワールドカップの両大会を協力して迎えることとしました。

昨年のラグビーワールドカップ2019においては、釜石市内に開設したファンゾーン内にデ市のブースを設置し、そこを訪れた多くの来場者にデ市を紹介したほか、デ市からラグビークラブ関係者を招き、釜石鶴住居復興スタジアムでの試合観戦や、釜石市を拠点に活動する釜石シーウェイブス RFC 関係者との交流会などを通して、行政間だけでなく民間も含めた姉妹都市関係のさらなる深化に向けて交流を行いました。

今後は、2019日本大会の経験を2023年の大会に生かしていただくことはもとより、次世代につながる交流が益々活発になるよう、両市が強力なスクラムを組んでラグビー交流等を推し進めてまいります。



デ市訪問団と野田釜石市長、釜石シーウェイブス GM 桜庭氏

「春日部市・フレージャーコースト市姉妹都市交流5周年記念事業」(春日部市)

埼玉県春日部市とオーストラリアのフレージャーコースト市は、春日部市の市民団体による訪問を機に交流が始まり、2007年に友好都市協定、2014年には姉妹都市協定を締結し、教育や文化、経済などさまざまな分野で市民による交流が活発に行われています。

2019年8月には、姉妹都市協定締結5周年を記念して市公式訪問団、市民、ホームステイ訪問団等総勢77人がフレージャーコースト市を訪問し、春日部市国際交流協会の協力のもと、さまざまなイベントを開催しました。

フレージャーコースト市内で最も賑わうマーケットに出展した春日部市 PR ブースでは、中高生が中心となって、伝統工芸品の桐製品、押絵羽子板や大凧の展示、ミニ凧作り体験などで春日部市を PR し、両市民の親近感が増す交流となりました。また、春日部市の小学生の思いを込めたメッセージを桐箱のタイムカプセルに納め、フレージャーコースト市に預けました。未来へつなぐ交流として10年後に開封されエアメールで届く予定です。

産業交流の進展に向けたビジネスミーティングでは、観光に着目した活発な意見交換や春日部市内の大学によるプレゼンテーションがなされ、新たな大学間交流の開始につながる大きな成果も得ました。

5周年記念事業は、両市民の姉妹都市への関心を大きく高めました。今後はこの訪問をきっかけとして、両市で国際交流を担う人材の育成を一層進めていくことで地域の国際化がさらに加速するものと期待しています。



春日部市の中高生が市の PR に活躍しました

「世界8都市食文化交流事業」(金沢市)

金沢市には7つの姉妹(友好)都市と1つの友好交流都市があり、今回初めて「食」をテーマに6人の料理人等を招き、2019年10月13日から16日の日程でこれら8都市との食文化交流事業を実施しました。

この事業の目的は主に3点あり、第1に「多くの市民に各都市の食文化を理解」してもらうことであり、国際交流団体の協力を得て市庁舎前広場にて「世界8都市・食の祭典」を開催し、テントブースでの試食やステージでのクイズ等で食の魅力に触れていただきました。

第2に「料理人・パティシエが相互に創作力を向上」することであり、料亭厨房や菓子工房において朝の仕入れから夜の仕込みまでお互いに技術交流を行いました。

第3に「若い世代の国際感覚を養成」することであり、金沢学院大学・短期大学教授の解説と食物栄養学専攻の学生の実演サポートを得て料理講座を開催し、学生ら市民と料理人の交流を深めました。

今回、一番苦労したのは食材の確保でしたが、入手困難な食材であっても料理人らが協力し合って調達してくれました。これは、海外各都市と金沢市の双方の「一流の料理人に参画」していただけたからこそできたことであり、長年積み重ねてきた各都市との信頼関係の賜物だと思います。本事業をきっかけに、今後とも金沢市の特性を活かした相互交流を深めてまいります。



市民向け料理講座



世界8都市・食の祭典

「中国・ブラジル青少年友好交流強化事業」(長野県)

長野県では、友好交流関係にある中国・河北省および長野県出身者が多く移住しているブラジルから、大学生等を受け入れる青少年交流事業を実施しています。今回は、河北大学から学生10人を招いた「河北大学生受入事業」について紹介いたします。

この事業では、県内観光地の訪問や、蕎麦打ちなどの食文化体験を行ったほか、信州大学に協力いただき、学生と丸1日交流するプログラムを実施しました。

当日は、キャンパスツアーや互いの大学を紹介するプレゼンテーションを通じて交流を深め、「日本で友達を作りたい」と想いを語っていた河北大学生たちは、中国語だけでなく、日本語や英語も交えながら、信州大学の学生たちと会話を楽しんでいました。

参加した河北大学の学生からは「長野県を好きになった」、「将来は長野県で働きたい」と前向きな感想が寄せられました。

全体で約1週間という短い研修でしたが、彼らにとって思い出深い経験となり、長野県や日中交流に関心を抱くきっかけとなれば幸いです。

長野県内の大学は、海外の大学と積極的に交流し、グローバル人材の育成に力を入れています。また、長野県は県内4市2町とともに、中国を相手国としたホストタウンに登録しています。今後も県内大学と連携してこの事業を継続し、中国との青少年交流を一層拡大してまいります。



信州大学での交流